

畜産とくトク情報

平成 21 年 7 月 14 日 (第 102 号)
問い合わせ先
長野県農政部園芸畜産課
電話:026-235-7232、Fax:026-232-0764

暑熱対策



暑い夏
到来間近！

関東甲信地方の 1 か月予報
(7 月 10 日気象庁発表)

前半は平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みですが、後半は晴れの日が多い見込み。

“暑熱対策”は誰もが知っていることですが、実際に農場で実践しなければ“暑熱対策”にはなりません！！

《全畜種共通》

対策のポイント

畜舎環境の改善

畜舎内の温度上昇を防ごう！湿気やアンモニアの排出に心がけよう！

畜舎内に空気の流れを作る。うまく流れない場合は強制的に換気する。

窓の開放、壁に開口部を設置、障害物の撤去、扇風機の設置、ダクト・トンネル換気

屋根を断熱・冷却する。

屋根への散水、スプリンクラーの設置、白色塗装、等

直射日光を遮る。

木やツル性植物、寒冷紗、すだれ等を利用して日よけや庇の設置を図る。

家畜への対策

家畜の体内からの放熱の促進に努めよう！

畜体に当たるよう送風する。気化熱を利用する。

扇風機の設置、細霧機等での畜体への水の噴霧、等

(畜体への細霧噴霧は有効であるが、換気が悪い場合や湿度が 60%以上の時は逆効果となるので注意が必要。)

飼育密度

密飼い防止 暑さ対策だけでなく、家畜の「イライラ」ストレスも防げる。

その他

交配や移動は涼しい時間帯に行う。

分娩は、ゆったりできる分娩舎を利用する。

飼料摂取量の減少を防止し、不足栄養分を補給しよう！

給 餌

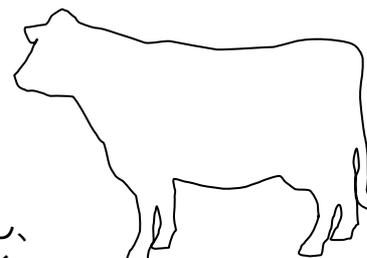
できるだけ涼しい時間帯に給与するとともに、嗜好性の良い高品質粗飼料を与える。
給与回数を増やし、常に目の前に新鮮な飼料があるようにする。
飼料の変敗（カビの発生や腐敗）に注意する。
飼槽の清掃や凸凹の補修等を行う。

ミネラル等の補給

塩分、重曹等を補給する。

給 水

冷たくて新鮮な水がいつも飲めるようにしておく。



《 乳牛 》

影響：乳牛は25℃を超えるとストレスを感じる。

暑熱下では、体内の熱の発生を抑えるため、採食量が減少し、繁殖成績の低下・乳量低下・周産期病発生率の上昇等を招く。

対策：良質な飼料を給与し、濃厚飼料の割合に注意し、ミネラル給与量を1～2割増加させる。また、快適な飼育環境に心がける。

分娩予定牛・高泌乳牛・高齢牛の毛刈りを行う。（特に導入牛）全体が無理な場合は、上半身や腹部の毛刈りだけでもよい。

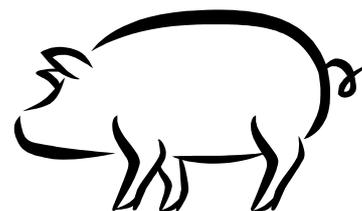
夜間の外気を利用する。（夜間のパドック利用等）

《 豚 》

影響：豚は皮下脂肪が厚く、汗腺が退化しているため暑熱に弱い。

繁殖豚の適正温度は15～18℃であり、気温30℃・湿度70%を超えると飼料摂取量が著しく低下する。

対策：頸部へのドロップクーリング。飼育密度の低減。飼料タンク内壁のカビの汚染防止。



《 鶏 》

影響：採卵鶏の適正温度は10～24℃であり、35℃を超えると熱死が多発する。暑熱下では採卵鶏は産卵率や卵重の低下を招き、肉用鶏では熱死（鶏舎構造と関連）や成長停滞を起こす。

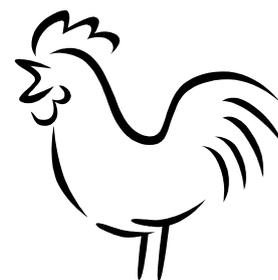
鶏舎内の温度上昇は、外気温の上昇と鶏の放出熱に因る。

対策：鶏体に直接風を当てる。（風速1mで体感温度は3℃低下）

解放鶏舎では、直射日光の遮断。（通風を考慮し、すだれ等を設置）

採卵鶏への重曹、ビタミンC製剤等の添加

空気の流れを縦方向に導くトンネル換気方式や、気化熱を利用したクーリングパドシステムの利用を進める。



なお、畜舎の立地条件、家畜の種類等によって、具体的な対策は変わってきますので、不明な点があれば、家畜保健衛生所へお問い合わせください。

動物用医薬品、抗菌性飼料添加剤等は正しく使用し、記録しましょう

24か月齢以上の死亡牛はBSE検査を受け、死体は適切に処理しましょう